

[報告]

学生・教員・図書館員の協働による図書館利用案内の動画制作について

Library usage guide video production through cooperation with students, faculty and staff

工藤 彩†

Aya Kudou†

†久留米大学 御井図書館

†Mii Library, Kurume Univ.

1. はじめに

御井図書館では、2006 年より「図書館利用案内」の動画を使った「新入生向けオリエンテーション」を実施している。2019 年 6 月に、商学部の学生からの提案があり、初めて学生と教員と図書館員の三者が協働して動画を制作した。本稿では、これまでに制作された動画について整理し、新たに制作した動画と図書館担当者の立場から学生・教員・図書館員のそれぞれが果たした役割について報告する。

2. これまでに制作された「図書館利用案内」の動画

これまで「図書館利用案内」の動画は、3 回制作された。第 1 期 (2005 年) から第 3 期 (2014 年) の動画について紹介する。なお、第 1 期から第 3 期までの動画内容については、表 1 に示す。

2.1. 第 1 期 (2005 年)

最初の動画は、2005 年に文学部情報社会学科 4 年生の卒業論文の一貫として制作された。図書館の利用方法について、一度に多くの人数を対象に図書館に出向かず教室で学習できるように「図書館活用法ビデオ」が制作された[1]。動画は、館内の案内や基本的な図書館の利用方法について紹介した「利用の仕方編」(15 分)とレポートや論文作成のための資料の探し方を紹介した「資料の探し方編」(15 分)の 2 編から構成される。図書館のサービスや資料等を網羅的に紹介し、資料を探す方法を学べるように、蔵書検索(OPAC)の画面を細かく表示させ、全体的にゆっくりとしたナレーションにした。さらに、反復学習ができるように、ウェブサイトを作成して、動画を見られるようにし、映像の補助資料として資料を配布した。

2.2. 第 2 期 (2008 年)

第 2 期は、第 1 期と同様に、文学部情報社会学科 4 年生の卒業論文の一貫として、2008 年 11 月に制作された[2]。制作された動画は 8 分 46 秒で、学生の興味を惹きつけるために図書館の利用方法に関するクイズを出題し、正解を発表して図書館の利用方法の説明を進める視聴者参加型が採用されている。また、第 1 期ではナレーションの速度が遅かったため、ナレーションのスピードをあげ、女性・男性の声を採用した。クイズ部分のナレーションを男性が行い、学生へ問いかけるようなセリフを取り入れ、元気で明朗な砕けたイメージになるように考慮された。

表 1 第 1 期 (2005 年) から第 3 期 (2014 年) までの動画内容

第 1 期 (2005 年)	第 2 期 (2008 年)	第 3 期 (2014 年)
<p><利用の仕方編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学図書館の特徴 ・館内案内 (1～3 階) ・地下書庫の利用方法 ・館内案内 (地下 1～2 階) ・500 号館地下書庫への行き方 ・館内案内 (500 号館地下書庫) ・視聴覚資料の利用方法 ・複写の利用方法 ・本の借り方・返し方 ・利用マナー・案内 <p><資料の探し方編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本編の概要説明 ・蔵書目録 (館内 OPAC) の説明・利用方法 ・NDC の説明 ・探し方実演 ・Webcat Plus, NDL-OPAC の説明・利用方法 ・レファレンスサービスについて ・Web サービスについて ・文献貸借依頼・文献複写依頼について 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下 1・2 階 500 号館地下書庫 ・1 階カウンター・インターネット OPAC コーナー・ブラウジングコーナー・雑誌コーナー・AV ライブラリコーナー・自由学習室 ・2 階開架書架・閲覧コーナー・複写室 ・3 階閲覧室 ・入館方法 【クイズ 1】入館するには何が必要？ ・検索 【クイズ 2】目録データベースの通称は？ ・OPAC の検索方法 ・閲覧 【クイズ 3】地下へ行くときの荷物は？ ・地下書庫への行き方 ・貸出 【クイズ 4】一度に貸出できる冊数は？ ・返却 【クイズ 5】図書館が閉館中の場合返却はどうすればいい？ ・返却ボックス ・開館時間・休館日 ・図書館のマナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・御井図書館の概要 ・大学での授業 ・情報源 ・図書館への入り方 ・貸出・返却の方法 ・館内案内 1 階 (視聴覚資料閲覧方法含む) ～3 階 ・地下 1 階～2 階 ・500 号館地下 (行き方含む) ・新着資料コーナー (選書ツアー案内含む), ハーウッド文庫, マイクロフィルム等貴重資料 ・館内 OPAC の説明, 利用方法 ・NDC ・図書館ホームページの説明 ・NDL-OPAC, CiNii Articles の説明 ・開館時間 ・利用マナー・案内

2.3. 第 3 期 (2014 年)

前回の動画制作から 5 年経ち, ブックディテクションシステム, 書架の配置などの点で現状と異なる点が出てきたため, 図書館員が司書課程担当教員に動画の改訂を相談し, 第 1 期の動画を制作した卒業生と司書課程担当教員によって制作された。

第 1 期の内容をベースに司書課程担当教員及び図書館員の意見に沿って改訂した。動画は, 11 分 28 秒で, 授業で利用しやすいように映像の時間を短縮し, ナレーションのスピードを第 1 期より速くした。さらに, ナレーションだけでなく, 出演者に台詞をつけた。また, 動画は実写だけではなくイラストを加えることにより, シンプルかつ説明をわかりやすくした。

2.4. 「図書館利用案内」の動画の活用

「図書館利用案内」の動画は、2006 年より新入生向けの図書館オリエンテーションで活用している。オリエンテーションは、図書館員による館内ツアーを中心としているが、教員からの希望があれば「図書館利用案内」の動画を選択的に視聴していた。

2016 年からは、図書館利用ガイダンスの内容を見直し、「新入生向けオリエンテーション」と「文献調査ガイダンス（基礎編・応用編）」に再構成した。新しい「新入生向けオリエンテーション」では、2014 年に制作された第 3 期の動画をオリエンテーションの導入に視聴した後、図書館員による館内ツアーを行う内容に変更した。書架の配置やサービスなど、動画と図書館の現状が合わない箇所は、図書館員が口頭で補足して動画を利用していた。

3. 第 4 期の動画制作の概要

3.1. 契機

図書館内の資料の配置場所が変更になったことに加えて、2017 年度より新入生全員を対象とした「学生生活ガイダンス」の際に動画を視聴することになったため、既存の図書館利用案内を見直すこととなった（2019 年度より「学生生活ガイダンス」での視聴はなくなった）。前回同様、2017 年 3 月に司書課程担当教員、卒業生と図書館員とで打ち合わせを行い、改訂作業を始動した。

改訂にあたって、以下の 3 つを盛り込むことを確認した。①大学における図書館の役割を知る。②大学図書館の利用方法、施設設備を知る。③御井図書館で出来ることを知る。

しかしながら、改訂作業を主導していた卒業生の本務が忙しくなったため、改訂作業は中断することとなった。

その後、2019 年 6 月に team.csv に所属する商学部の 2 年生が図書館に関するアンケートと紹介動画の制作の相談に来館したのが今回の動画制作の端緒となった。学生が入学時の「学生生活ガイダンス」と 1 年次のゼミで参加した「新入生向けオリエンテーション」の際に見た動画の情報が古いと感じていた。その後、『経営学入門Ⅱ』の経営情報システム論分野の授業中に、team.csv というコンピュータサイエンスを活用したボランティア活動の募集を知り、パソコンを使った動画編集には興味があったため、「図書館利用案内」の動画を改訂するボランティアを企画した。

図書館は、かねてからの課題であった動画の改訂に対するボランティアだったため申し出を歓迎し、学生が改訂作業の主体として、図書館と協力して制作することとなった。次年度の「新入生向けオリエンテーション」で使用するため、2020 年 3 月末までに動画を完成させることを目標にスケジュールを組み立てた。

3.2. メンバー

動画制作は、team.csv というサークルに所属する学生のうち 2 名（商学部 2 年原田弥生・田中亜弥）が担当した。1 名はスケジュール管理や図書館員との連絡などのマネジメント業務を担当し、もう 1 名は撮影・動画編集業務を担当し、制作を進めた。

なお、team.csv とは Computer Science を活用した Volunteer を行う team という意味であり、子ども向けのプログラミング教室を福岡県内のボランティア団体などと共同で開催する[3][4]、

遠隔地（沖縄県）の小学校向けにプログラミングの遠隔授業を行なう、筑前町のいちご農園（いちご狩り施設）の IT 化を町と共同研究する、といった活動を行なっている。

また、今回のナレーションは久留米大学ラジオサークル Green FM に所属する学生（文学部 2 年徳田有咲）に協力してもらった。

3.3. 動画制作の流れ

動画を完成させるまでのスケジュールを以下に示す。

① 企画書の作成（2019 年 6 月）

学生が企画書の素案を作成し、図書館員が企画書に修正を指示。

② 図書館アンケートの実施（2019 年 7 月 1 日～15 日）

学生が Google form を使って図書館に対するアンケートを実施。設問は、1.利用頻度 2.利用目的 3.利用しない理由 4.利用したい資料 5.どんな図書館を希望するか 6.図書館がなくてもレポートは書けるか 7.レポートを書く際にどの資料を使うか 8.意見要望の 8 問。講義や図書館の館内の掲示等で回答を依頼した。回答者数は 203 名。

③ 動画構成考案（2019 年 9～11 月）

館内の写真を撮影し、PowerPoint で動画構成を作成。司書課程担当教員に確認してもらい、動画の構成がよりイメージしやすいように仮動画を作成することを提案。

④ 仮動画作成（2019 年 11～12 月）

11 月下旬より館内を撮影し、仮動画を作成。

⑤ 仮動画に対する要望（2020 年 1 月）

仮動画に対する図書館員と司書課程担当教員の意見を集約し、図書館員より動画に対する全体的な要望と個別の動画構成の修正を依頼。

⑥ 本撮影（2020 年 2 月中旬）

図書館員より事前に図書館の各コーナーの撮影場所について指示。

⑦ 本動画作成（2020 年 2 月中旬～3 月）

本動画作成後、図書館員と学生とでメールや対面の打ち合わせを行い、動画の修正を指示。

⑧ 本動画完成（2020 年 4 月 7 日）

3.4. 動画の構成

完成した動画は 11 分 22 秒で、動画の構成は、以下の通りとなった。オープニングとエンディングにはドローンを使用した映像を使用し、図書館の館内の写真や動画だけでなく、アニメーションを多用している。

- ・ オープニング（～0:05）【ドローン】
- ・ 大学の授業について（0:05～0:53）【アニメーション】
- ・ 久留米大御井図書館とは＋利用時間（0:53～1:42）
- ・ 入館の仕方（1:42～2:21）
- ・ 図書の貸出・返却方法（2:21～3:54）
- ・ 御井図書館内の案内（500 号館以外）（3:54～6:21）
- ・ 地下書庫・地下書庫 500 号館への行き方（6:21～8:28）

- OPAC の使い方 (8:28~9:04) 【アニメーション】
- 請求記号の見方 (9:04~10:09) 【アニメーション】
- レファレンスカウンターの紹介 (10:09~10:35)
- 選書ツアー (10:35~10:54)
- エンディング (10:54~11:22) 【ドローン】

3.5. 動画の撮影

動画の本撮影は、館内の光加減を考慮し、2020 年 2 月中旬の晴れた日に行った。撮影機材は、iPhone7 と動画のブレや揺れを抑えた撮影を可能にするジンバル (iSteady Mobile) を使用した。図書館員があらかじめ図書館の館内の撮影場所や撮影位置などについて指示し、撮影は学生のみで行った。また、図書の貸出や地下書庫への申し込みなどの人物が必要な場合は、図書館の学生サポーターに出演してもらった。

ドローン (Tello) による撮影は、騒音や来館者が少ない時間帯を考慮し、開館直後に図書館の外観と図書館内の吹き抜けを撮影した。図書館を外から撮影する際、小型のドローンのため風に煽られやすく、何度も撮り直しが必要となった。

3.6. 動画の編集

動画編集ソフトは、AviUtl[5]を使用した。AviUtl は、個人で開発しているフリーの動画編集ソフトで、自由度が高く、プラグインソフトを導入することで、本格的な動画編集が可能である。AviUtl の編集画面は図 1 に示す。AviUtl は、iPhone の動画 mov 形式ファイルを読み込まなかったため、mp4 形式ファイルに全て変換する必要があった。

初めて動画の編集作業をするため、絵コンテではなく撮影箇所の項目を作り、それをもとに仮動画を作成した。仮動画の編集時に「やっぱりここはこう撮った方がいいな」「次にこのシーンを撮るときはこう撮ろう」といった撮影時とは違う明確なイメージが湧きやすかった。

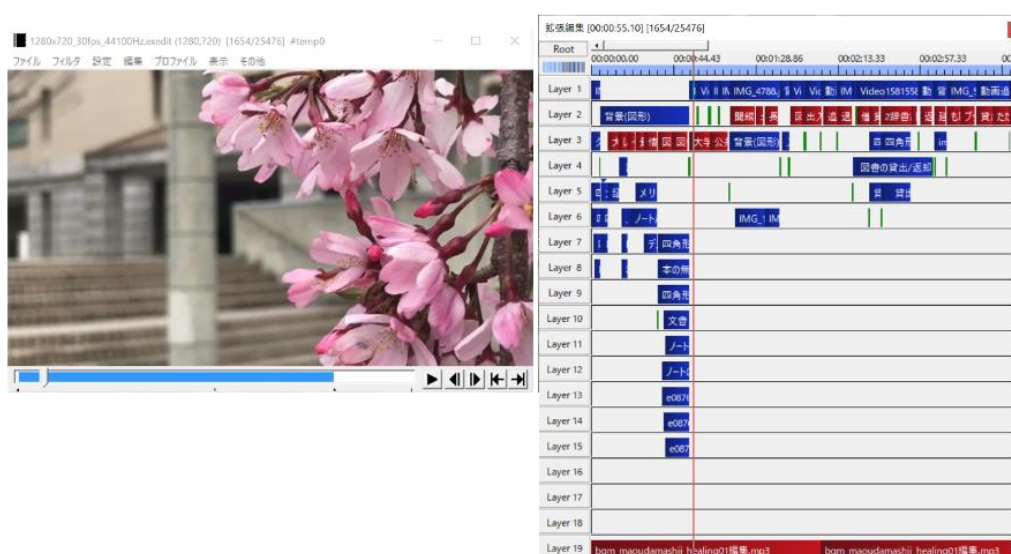


図 1 AviUtl 編集画面 (左は本体ウィンドウ(メイン画面)、右は動画のタイムラインである)

今回の動画では、図書館の館内の写真や動画だけでなく、アニメーションを多用している。そのため、アニメーションシーンのオブジェクトを整理したり、適切な動きを与えることに手間がかかり苦勞していた様子が見受けられた。

3.7. ナレーション

ナレーションは、先述の通り久留米大学ラジオサークル Green FM に所属する学生に依頼した。送られてきた音声がちちゃんと聞き取れるか、言葉が抜けていないかの確認を行い、図書館の専門用語の読み間違いなど修正箇所がいくつか出てきたため、何度か撮り直しをお願いすることになった。また、編集作業を進めていく中であとからやっぱりこうした方が良かったのでは、と修正を何度か入れてしまったため、もっとじっくりセリフを考え抜く必要があった。

4. 考察

4.1. 図書館員から見た動画制作

今回の動画制作は、学生からの自発的なボランティア活動だったため、図書館員は全体の進行管理と図書館の動画の内容に対する専門的な立場からの助言に徹した。また、教員には、動画制作が行き詰った際、これまでの動画制作の知識をもとに、仲介的な立場でアドバイスをいただいた。

動画制作の企画から完成までの 9 か月間、学生のモチベーションを維持することにも配慮した。図書館員は、学生の発案を尊重し、打ち合わせを通して、学生と図書館員との意見を擦り合わせた。また、締め切りに間に合わせるために、打ち合わせの度、今後のスケジュールを確認し、どこまで作業を進めていくのか、今後の見通しを確認した。

図書館員は、学生の自由な発案を活かしながらも、図書館用語や専門的な部分は的確に指示し、図書館が求めるゴールを示し、協働して作業することが重要だと感じた。本格的に動画編集が進むと、図書館員が確認し、修正を指示し、それに対して学生が修正を行い、またそれを図書館員が確認するというやり取りが多くなった。専門用語の読み方やメールでの修正の指示では細かなニュアンスが伝わらなかったため、図書館員が意図しなかった方向に修正がされていた場合もあった。結果的に学生に手間をかけてしまったため、動画制作の終盤には、打ち合わせと修正作業を同時に行うことで、スムーズに修正作業を行うことができた。

動画制作を通して、学生は、撮影や編集作業を学ぶだけでなく、図書館員や教員とのやり取りを行いながら協働作業の苦勞や大変さもあったと思う。その一方で、図書館員はやり遂げたことで得られた達成感を共有し、学生の成長を実感することができた。

4.2. 動画の活用

2020 年 4 月に御井図書館の新入生向けオリエンテーション開始に合わせて動画を完成させた。しかし、2020 年 4 月 7 日に国が緊急事態宣言を発令したことを受け、キャンパスへの入構が禁止となり、4 月 21 日からオンデマンド型 WEB 授業となった。そのため、前期授業では「新入生向けオリエンテーション」が実施されなかったため、6 月上旬に Web で図書館動画が閲覧できるように御井図書館ホームページ上で公開した[6]。

後期の授業では、ゼミなどの演習科目が対面授業となったことにより、前期に実施できなかった「新入生向けオリエンテーション」を後期に実施し、今回制作した動画を活用した。

また、前期に「新入生向けオリエンテーション」を受講していないため、1年生の「文献調査ガイダンス」でも、ガイダンスの導入部分に動画を活用した。動画を見せることにより、図書館の基本的な機能を視覚的にわかりやすく伝えることができた。

さらに、留学生別科のガイダンス時に動画を視聴した際、別科教員より留学生に向けたやさしい日本語字幕が付いた動画の制作を要望され、新たなニーズを把握することができた。

5. おわりに

学生が企画・立案・制作までのプロセスを担当した図書館利用案内の動画制作について、第1期から第4期にわたって図書館員の立場から報告した。今回の第4期の動画制作を通じて、制作を担当した学生は広報室から女子寮の広報ビデオの企画・撮影・編集などを請け負うことになった。さらに、地域連携センターを通じて、久留米市内の大学によるイベント「サイエンスモール」の動画撮影・編集の依頼を受けた。

今後の課題としては、次の動画の改訂である。「図書館利用案内」の動画は、図書館の配置やサービスが変わるたびに動画を改訂し続けなければならない。第4期の動画制作の経験を活かし、次の動画制作に向けた後継者を探すことが課題であるが、学生サークルteam.csvを担当する教員と新たなつながりが生まれ、次は学生が企画した図書館を使ったイベントを現在計画中である。

謝辞

今回の動画制作にあたり、制作していただきました商学部の実田弥生さん・田中亜弥さん、ご助言いただきました商学部の木下和也教授には深く感謝申し上げます。

また、これまで動画の制作・改訂していただきました卒業生の八田明子さん（那珂川市図書館）、ご助言いただきました司書課程担当の遠山潤名誉教授に感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 八田明子，“調べ学習の為の図書館活用教材の作成” 久留米大学文学部要旨集情報社会学科編，平成17年度，pp.128-129，2005.
- [2] 山口奈緒美，“参加型御井図書館利用案内ビデオの制作” 久留米大学文学部要旨集情報社会学科編，平成20年度，pp.126-127，2009.
- [3] 木下和也，“地域貢献活動として企画されるプログラミング講座について：アシスタントとして学生がプログラミングを教えることの意義” 久留米大学コンピュータジャーナル，33，pp.86-94，2019.
- [4] 木下和也，“地域貢献活動として企画されるプログラミング講座について：学生とボランティア団体が共同開催する意義” 久留米大学コンピュータジャーナル，34，pp.33-46，2020.
- [5] AviUtl のお部屋 <http://spring-fragrance.mints.ne.jp/aviutl/> 最終確認 2020 年 12 月 17 日
- [6] 御井図書館利用案内 <https://youtu.be/JhjCh2SR9ec> 最終確認 2020 年 12 月 17 日